

図10 2002年7月1日~2004年6月30日の期間における（左）従来の手法による“東海スロースリップ”と（右）本研究によるスロースリップと固着の領域。従来の手法より本研究によるスロースリップの領域が深い方によっていることがわかる。同期間の深部低周波微動（緑点）の分布も示す（東京大学 [課題番号：1404]）

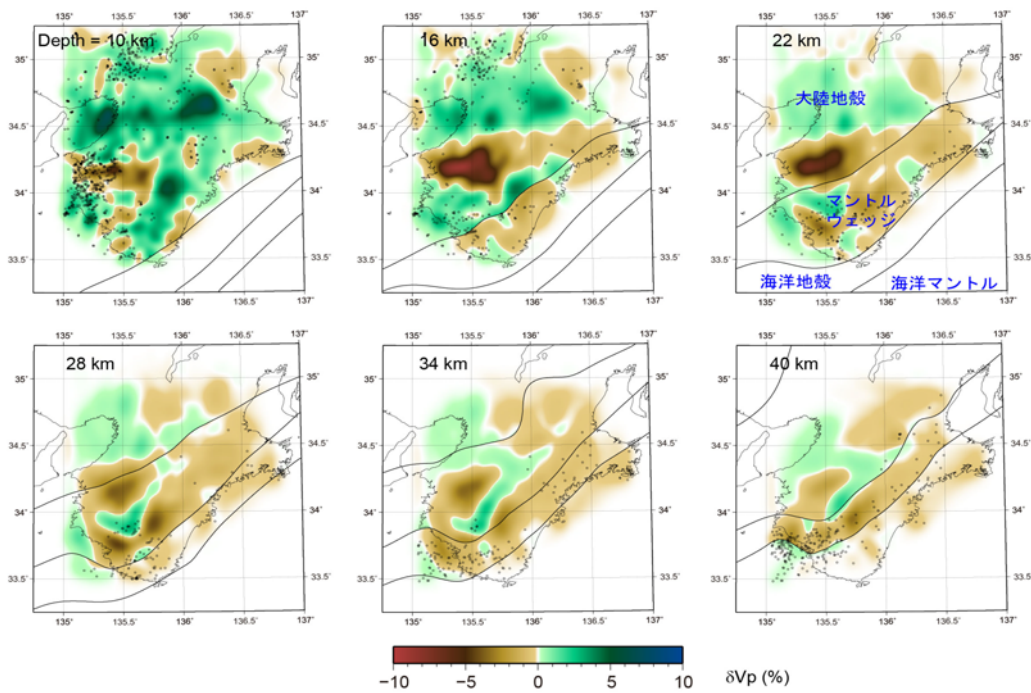


図11 地震波速度トモグラフィーによって求めたP波速度の初期モデルからのパータベーション。初期モデルはJMA2001（上野・他，2002）を基準とし，海洋地殻の速度を-5%，海洋マントルとマントルウェッジの速度を+5%と与えた。○はトモグラフィーに用いた地震のうち各深さ断面の近傍で発生したものを表す。太線は北から大陸モホ面，海洋地殻上面，海洋モホ面を示す（京都大学 [課題番号：1801]）